

第1問 次の文章を読んで、後の問にこたえなさい。

解答と解説

私が小学六年生の時の担任教師は、お世辞にも良い先生とは言えない人でした。

一時間目の授業は先生の話でほとんど時間を使っています。しかもそれは前日のプロ野球の話が大半で、「なぜ昨日の試合は負けたのか？せっかく一点差に詰め寄ったのに、次の回の同点に追いつくチャンスでスクイズのサインを見落とした。そこが一番の敗因で・・・」などといった具合です。簡単に言ってしまうと、生徒のためになる内容でもなんでもなく、単にその先生のシュミ^(ア)の話です。

教師の話に害は無いとしても、授業が進まないことは気になりますし、授業内容が間違っていることも多く、これは私たち生徒にとっては問題でした。

たとえば、「江戸時代は平安時代に比べるとかなり長いので・・・」などと社会の授業で説明をするのです。皆さんご存知のように平安時代は約四百年で江戸時代は約二百六十五年ですから、当然ながら平安時代の方が長いわけですが、この担任教師は何を勘違いしているのか、授業でこの話を何度もしていました。

さらにひどいのは運動会のクラス対抗リレーの練習をしている時は、走るのが遅い子は徹底的にしかられます。遅い子だって、バトンを受け取る前から走りだして少しでもスムーズなバトンリレーになるようにと、足も手の動作もちゃんと教えられたとおりにやっています。

でもダメなんです。走るのが遅い子は怒られるんです。短距離走はもともと、走るのが速い・遅いがある程度決まっているわけですから、遅いと怒られるのはかなりな理不尽と言え^(イ)そうです。

このような担任教師との一年間は私たちクラスの生徒にとってはまさにフグウ^(イ)の時代でした。こういう大人もいるものだ、反面教師だと思って割り切っていた部分もありましたが、この担任と過ごした一年間の授業はとにかく面白く無い毎日の連続でした。

それでも、たった一つだけ良いエピソードとして印象に残っていることがあります。

ある朝の会の時、ニュースの交通事故のことを取り上げて話をしていた担任が「車は、どんな人がどんなことを考えて運転しているかわからないものです。家を出る直前に嫌なことあってイライラして運転しているかもしれないし、寝不足で運転していて周囲をちゃんと見れていない人だっているかもしれない。だから、横断歩道は歩行者が優先だけど青信号でも左右をよく確認して、車が曲がってきたら、止まりそうかよく見て欲しいんです。」と言ったのです。

この時のことは、この教師の普段の言動からするとまともな話だったせいか、今でも妙に覚えています。そして、どんなにためにならなそう人だったとしても、少しは学べるいろいろなところもあるものだと思うたものです。

(宇古水伊 舞「ぼくはバツハが得意じゃない」より)

問一 次の選択肢のうち、本文と合っているものはどれか。

1 筆者はプロ野球があまり好きでは無い。 本文に記載が無い。

2 筆者は短距離走が得意である。

本文に記載が無い。

○ 3 筆者の担任教師は歴史についての知識が十分ではない。 4段落目の たとえば の箇所が具体例

4 筆者の担任教師はスポーツをするのが得意である。 これも本文に記載が無い。

問二 この文章で筆者の主張は次の選択肢のうちどれか。

1 筆者の担任教師は授業内容が間違っていることがあるし、人格的にも問題がある人物なので、こうした人が教育現場に入りこまなように何らかの対策が必要である。一般論であり本文には無い。

2 筆者の担任教師と筆者を比べると、筆者の方が社会の授業の日本の歴史について正しい知識を持っている。 本文から考えるとそうだと思われるが、筆者の主張ではない。

○ 3 問題がたくさんあるような人物と常に接することは苦痛を伴うことではあるが、そうした人物からも学べることは一定数ある。本文中の 反面教師 と最後の段落から判断すると、これが正解。

4 横断歩道が青信号の時、歩行者が車より優先ではあるが、運転している人がよく見ているとは限らないので、渡る時には車に気をつけて歩くことが重要である。このエピソードはたしかに本文にあるが、あくまでも具体例であり、筆者の主張ではない。

ワンポイント解説 本文に書いてある≡筆者の主張 ではないので注意。また一般論で正しそうな選択肢にも要注意。

問三 傍線部の漢字と同じ漢字の熟語を選択肢から選べ。

ア シュミ趣味 ○ (1) シュインセン貿易 朱印船貿易
(2) シュコウを凝らす。 趣向を凝らす。

(3) シュクジツでお休みです。 祝日
(4) ケンシュを誇るチーム 堅守を誇る

イ フグウ不遇 (1) グウハツテキな出来事 偶発的な
(2) グウスウと奇数 偶数
(3) グウゼンを装う。 偶然

○ (4) 幹部からコウグウを受ける。 厚遇を受ける。手厚い待遇という意